全日本総合選手権女子決勝

審判長　松　本　隆　志

2000 年 12 月中旬、携帯に一本の電話が架かってきた。翌年 1 月から開催される全日本総合選手権の審判割当の連絡であった。「1 月 2 日 16:00 男子 1 回戦 ‥‥ 1 月 7 日女子決勝、相手は小池氏･･･」。私は「はい、ありがとうございます」と返事をして電話を切ったものの、予期せぬ割当に驚きと信じられない気持ちで一杯であった。オールジャパンのファイナルといえば、毎年錚々たる審判員がジャッジする国内最高峰のゲームである。果たして、私がそんなゲームを吹けるのだろうか？と不安がよぎる。しかし、名誉あるこの割当をいただいたことに感謝し、全力を尽くして頑張ろうと心に誓った。それから、大会までの日々は大きなプレッシャーとの戦いとなる。

1993 年に、3 度目の挑戦で念願の A 級を取得した。そして、AA 級へ挑戦することとなるが、自分の力の無さに昇格を断念するという時期も経ながら、先輩や仲間からの励まし、県協会からのご支援のお陰で、AA 級に昇格することができた。1997 年、黄色のワッペンをつけて少しでも恩返しができると思っていた矢先、勤務先から東京への転勤を命ぜられ、今まで育てていただいた山口を離れることとなる。こんな親不孝者の私であったが、「山口に帰ってくる時は、国際公認を取って帰ってこいよ」と、あたたかく送りだして貰った。励ましの意味も込められたその言葉を胸に秘め、次なる目標を持って東京での 5 年間を過ごすこととなる。

1 月 7 日女子決勝当日。代々木第 2 体育館へ向かう途中、審判 OB の方に「緊張してないか?頑張れよ！」と声を掛けられる。無事に今日の日を迎えられたという安堵感もあり、後はやるしかないという気持ちであった。

ジャパンエナジー 68-64 シャンソン化粧品

師と仰ぐ小池先生に支えられ、何とか無事に審判を務めることができた。試合後、廣田氏や川武氏、多くの県内関係者から電話で慰労の言葉を頂いたことは今でも忘れられない。

2002 年に山口へ帰り、2005 年からは県審判長という重責を務めさせてもらっている。現在では県公認を含めると 700 名を超える審判員が所属する大所帯、運営面においては、多くの審判員の積極的な取り組みのお陰で、円滑な大会運営ができていると思う。審判員の育成面については、5 年後の山口国体に向けて、国体に従事できる審判員の育成により注力していかなければならない。日頃から多くのチーム関係の皆様に、ご理解ご協力をいただいていることに感謝しながらも、個々の審判員がそれに甘えることなく、自覚と誇りある審判員を目指して、一人でも多くの信頼される審判員がコートに立つことができるよう努力していきたいと思っている。

「夢を追う　－山口県バスケットボール協会60年のあゆみ－」（平成19年2月発行）に掲載
肩書きは掲載当時のものです。
この文章の無断転載は固くお断りします。